

2月19日～20日を「北海道の物流と地域の将来(あす)を考える2日間」として、北海道経済産業局主催の「北海道地域フィジカルインターネット懇談会」と連携し、1日目として北海道開発局・北海道運輸局主催の「共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムでは、北海道における共同輸送・中継輸送に重要な「場所」と「仕組み」の実装に向け、共同輸送・中継輸送に係るこれまでの取組成果の紹介やパネルディスカッション等を通じて、北海道の物流と地域の将来(あす)について考えました。

- 日時 令和6年2月19日(月) 14:00～17:00
- 場所 アスティ45 4階ホール
(札幌市中央区北4条西5丁目1)
- 参加者 物流事業者や荷主企業、行政機関
(会場参加:170名、オンライン参加:230名)
- 内容



1. 主催者挨拶

- 北海道開発局 次長 小島 吉良
- ・「物流2024問題」のスタートまで残り1,000時間を切った。
 - ・効率的な物流システム構築をさらに進めるためには産業面やインフラ面等各方面に検討や官民連携の「共創」の取組が必要。



北海道開発局
小島次長

2. 2024年問題とその背景

- 北海道運輸局 次長 川路 勉
- ・トラック運送事業の働き方をめぐる現状として、労働時間、年間賃金、人手不足、年齢構成の課題がある。
 - ・国は「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」において、「物流革新に向けた政策パッケージ」を決定。



北海道運輸局
川路次長

3. 今年度事業の成果報告

(1)これまでの検討経緯

北海道開発局 開発監理部 開発調整課長 空閑 健



開発調整課
空閑 課長



道路計画課
坂 課長

(2)「場所」に関する取組

①道の駅等における実証実験結果

北海道開発局 建設部 道路計画課長 坂 憲浩

②名寄市における物流・防災拠点化構想

名寄市長 加藤 剛士 氏



名寄市
加藤 市長



開発調整課
三岡 企画官

(3)「仕組み」に関する取組

①『北海道流』物流マッチングモデル「ロジスク」

北海道開発局 開発監理部 開発調整課 開発企画官 三岡 照之

②リレイプレイス構想

ヤマト運輸株式会社 北海道統括ゼネラルマネージャー 菊池 誠 氏



ヤマト運輸(株)
菊池 GM



北海道局
阿部 専門官

(4)デジタル技術による物流の可視化の取組

国土交通省 北海道局 参事官室 開発専門官 阿部 正隆

4. パネルディスカッション

テーマ

「北海道における共同輸送・中継輸送の実装に向けて～「場所」と「仕組み」～」



【藤田 健慈 氏 (名寄商工会議所会頭)】

- ・旭川以北は、水産物・乳製品・農産物の宝庫であるが、人口が激減しており、生産品・宅配便も含めて物量が大幅に減ることが懸念される物流クライシス(危機)のデパートのようなところ。
- ・値段が高い、運べない、貯蔵する場所もないといった「選ばれない地域」にならないよう、必要な場所に配送ができる、貯蔵ができるなど、様々なことを考えていかなければいけない。
- ・早期に状況を解決するには、北海道独自の総合的なネットワークをつくる必要があるのではないか。

【菊池 誠 氏 (ヤマト運輸(株)北海道統括ゼネラルマネージャー)】

- ・道北主管の管轄下のラストマイルは380台ぐらいになるが、先細っていると感じている。
- ・販売チャネルの拡大など荷動きを増やして行く取り組みや、中継輸送を絡めながらラストマイルまで物流が行き届く仕組みを構築すべき。
- ・新たな一歩を動かすための仲間をしっかりと作れる環境ができれば、もっと北海道は元気になるのではないかと思います。皆さんと一緒にやりましょう。

【岩下 幸司 (北海道開発局旭川開発建設部長)】

- ・北海道は広域分散型の地域構造になっている。特に道北の北部は人口が極めて疎であり、地域の活力が低下すると我が国の食料生産にも影響を及ぼしかねないという認識がある。
- ・名寄市の物流・防災拠点化構想のように、機能が複合化された拠点が理想的である。
- ・北海道型地域構造の中で、特に道北は、豊かな地域資源があるが活かし切れていないという問題意識がある。物流も含めて地域の担い手を確保していかなければならない。

【相浦 宣徳 氏 (北海商科大学商学部商学科教授)】

- ・1度の中継で届かない地域もある。自分のところは物流に恵まれているからいいやではなく、その先を支えないと自分たちの地域もへたってしまうことを念頭に全道のネットワークを考えないといけない。
- ・ネットワークを作る上で必要なのは、共同輸送・中継輸送の要となる拠点の立地とその機能の在り方、拠点をつなぐリンクの高速化や輸送力の強化、道外とのつながりの在り方。
- ・中継拠点を増やすということは、総所要時間が延びるため、共同輸送・中継輸送のための拠点における処理能力を、いかに高めるかというのがポイントになる。そのためには、商習慣の見直しやシステムを容易く簡便に出来る仕組みづくり、DXの観点からの取り組みも必要。

【高橋 清 氏 (北見工業大学地域未来デザイン工学科教授)】

- ・部分最適ではなくて全体最適で行くしかないというのは地域も同じで、地域に散在している「生産空間」をどのようにまとめていくのが考えてい必要がある。
- ・物流の課題は「競争領域」から「協調領域」になる中で、いかに北海道らしい物流システムを作り上げていくのが課せられた課題。
- ・物流と地域のあり方をみんなで考えていく必要がある。



北見工業大学
高橋 教授



北海商科大学
相浦 教授



名寄商工会議所
藤田 会頭



ヤマト運輸(株)
菊池 GM



旭川開発建設部
岩下 部長